

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 21 年度

事業所番号	2771601909		
法人名	特定非営利活動法人吹田市民NPO		
事業所名	グループホーム「あい」		
所在地	吹田市南高浜町22-7		
自己評価作成日	平成 22年 2月 10日	評価結果市町村受理日	平成 22年 5月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2771601909&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 22年 3月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

こじんまりとしたホームで2階建て(階段)というハンデはありますが、その雰囲気が入居者・家族の方々に家庭的な印象をもっていただいています。また、ホームの前にはお宮さんのある公園があり、そこでのおしゃべりや自治会の催しへの参加ができ、ゆったりした暮らしぶりになっています。そして、認知症の事について啓発活動を地域・行政と協同して進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者定員6名の少人数のホームです。ホームの前には神社のある広い公園があり、地域の方々がラジオ体操等様々な行事を開催し、そこへ利用者や職員も参加しています。家族会が結成され、家族と一緒に泊まりの旅行にも出かけています。家族の利用者に対する思いを大切に尊重して日常のケアに活かしています。事業所の力を活かした地域貢献は、2003年10月の開設以来積極的に取り組み、地域ふれあいサロンの継続した取り組み、認知症サポーター養成講座の開催等地域との連携は充実しています。地域との連携や利用者の継続した生活の実現など、地域密着型サービス事業所としての役割が発揮されているグループホームです。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	“ゆっくり、一緒に楽しく”心地よい居場所をつくりあげる家(ホーム)です。を業務日誌やミーティング資料に明記することはもとより、あらゆる場面でスタッフが共有し、職員の意識を促し実践につなげるよう努めている。	「“ゆっくり、一緒に楽しく”心地よい居場所をつくりあげる家(ホーム)です。」との理念をパンフレットにも明記し、職員はもちろん家族や地域の方々の協力も得て、利用者にとって心地よい居場所を作りあげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ホーム前の公園が自治会の催しなどの場になるため、積極的に参加できるようにしている。また、公園に来る地域の人たちとの交流やラジオ体操への参加、日常的な近所づきあいを心掛けている。	ホームの前の公園では自治会の催し(体操・グランドゴルフ・祭のはやしの練習)があるため、利用者と見学したり、参加したりしています。地域のふれあいサロンでは、月に2～3回、地域の方々と一緒にお昼ご飯を食べて交流しています。最初は認知症の利用者と見られていた方たちも、今では名前と呼ばれるようになりました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域ふれあいサロンの継続した取り組み、認知症サポーター養成講座の開催や地域での様々な催物において啓発活動に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で自治会館で開催し、その会議ではホームの現状及びケアの実情を報告し、意見交換を進めている。時にはホームにも出向き、各推進委員の意見をスタッフに伝えるなどに努めている。	自治会館で、2ヶ月に1回、ホーム長、管理者、利用者家族、介護相談員、CSW（生活総合相談員）、地域包括支援センター職員、自治会長等が出席し、ホームの現状や課題・利用者の生活等を写真入り文書で報告し、意見や協力を求め、サービスの向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	吹田市・介護保険課とは随時意見交換、情報共有に努めている。	市の担当者とは常に連絡が取れる体制になっており、サポーター養成講座に協力してもらったり、入居の相談についても連絡したりしています。介護相談員の受け入れもしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保のため、やむを得ず必要最小限の施錠にとどめる努力をしている。 日中は基本的に玄関の施錠をせず、扉が開くとベルが鳴るようにして、見守りができるようにしている。	内部研修でも身体拘束について勉強会をしており、拘束をしないケアに取り組んでいます。日中、玄関は施錠せず、扉が開くとベルが鳴るようにしてあり、見守りができています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修会への参加、内部研修の実施などで虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の実情把握に努め、その必要性を家族とともに情報の共有に努め、研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はもとより、制度の改定やホームの現状を定期的に報告し、意見交換に努めている。制度改正に伴い契約書の改定を行い、それぞれ説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時家族会を開催し、意見交換に努めるとともに文書等での報告や年度方針を配布している。	家族会を開催し、ホームの運営などについて、意見交換を行っています。運営推進会議に家族も参加し、意見を述べられるようになっていきます。面会も頻繁にあり、家族とは協力しあえる関係になっています。毎年7月には、家族と一緒に大掃除をしています。	

7月	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見が反映される作成プロセスの元で、年度方針の意見交換を行っている。	月に1回職員全員参加の会議をしており、そこで、職員一人ひとりの思いや意見や提案を聞き、反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時個人面談(2009年度実績は4回)を行い、その結果についてはミーティングでの報告、文書等での報告に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する外部研修、業務に必要な内部研修の定期化など、ケアの習熟能力の向上に努めている。又介護福祉士資格取得への特別奨励も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	吹田市の社協が組織している施設連絡会に参加し、その取り組みに積極的に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式での情報整理を行い、ケア計画を家族との意見交換、スタッフ間でのレクチャにより信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケア計画の作成には家族との意見交換を行い、同時に毎月その進行状況の報告に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	長期的な目標とともに短期的には何が 必要なのか、本人の思いを見極め、家族と意見交換する中でサービスの内容を見極めた対応に努めている。家族の来所時に些細な変化などを聞くなどして対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常で不自由なところはサポートしつつ、本人の意思を尊重し、無理のない範囲で家事等の参加を促す工夫、努力をしている。例えば、料理のコツや掃除について教えてもらうことで介護される一方でなく、互いに支えあう関係がみえてくる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年末に年賀状を作成した。家族と一緒に出かけるときに必要なケアについてレクチャするなどして外出をサポートしている。 家族とのコミュニケーションを密にする事で家族が来訪しやすい雰囲気を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族とともに友人知人が気楽に訪れてもらえる、電話などかけてもらえる環境作りに努めている。	入居前から交流があった近所の方や、友達が気軽に訪問しています。利用者と近所に住んでいた方が、利用者のこれまで暮らしていた庭の梅を取って持ってきてくれ、梅ジュースを作ったこともあります。秋には柿狩りに利用者で行きました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、各入居者の個性や思考を考慮して入居者同士のコミュニケーション、話題を工夫し、サポートに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先の施設との情報交換や時にはホームに立ち寄ってもらうこともあった。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で入居者の希望・意向の把握に努め、会話や表情を見えています。	センター方式の情報シートを使って、利用者一人ひとりの思いや希望を把握しています。日常生活の中での会話や表情で思いや意向を汲み取り、ケアをしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人記録の活用に努め、家族や友人との会話の中からの情報を収集し、センター方式による把握に努め、ケア計画に反映させています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に残し、スタッフ一人一人が現状の把握を行うように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア計画の作成プロセスを明確にした取り組みをすすめている。	介護計画は長期目標・行動目標があり、毎月の職員の思いも記入しています。職員の意見や家族の思いを反映させ、介護計画を作成しています。家族からは「家族がした方が良い事はどんどん教えてください」とのコメントもあり、関係者が連携して計画を作成しています。	今後も研修等を通じて、認知症や個別ケアの理解を深め、介護計画のさらなる充実が期待されます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画やセンター方式などへ転記を行い、重要と思われる事項についてはミーティングで取り上げるなど情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の催しにスタッフや家族・協力者と参加することで、ホームの存在を知ってもらいきっかけ作りとなる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力者、自治会、地域ふれあいサロンの連携で豊かな暮らしづくりを出しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問による内科診療と歯科診療を定期的に行い、必要に応じて専門医(眼科・精神科等)への受診を家族と相談して行っています。	今までのかかりつけ医にかかっていた利用者は当初いましたが、家族と相談し、同意を得て、近くで受診しています。内科・歯科は月に2回の訪問があります。内科医には、利用者の健康状態について、随時適切に対応をもらっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	主には訪問診療の医師と連絡を取り合って支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ホームでの暮らしぶりなど、センター方式を活用するなどして情報の伝達に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	この課題については、スタッフ間での研修に留まっている。 家族との間では、同意文書を交わすなどしている。	重度化した場合や終末期に向けた時の同意書を家族と交わしています。利用者一人ひとりの状況に合わせて相談し、対応するようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時を想定した訓練、救急対応の訓練を定期的実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加すると共に、ホーム独自で消防避難訓練を実施している。	災害時マニュアルを作成しています。避難訓練は、消防団員や自治会の防火部のメンバーも参加し、実施しています。夜間の職員一人体制でどのように連絡・避難させるかとの声があり、話し合いもする予定です。2階のベランダには、階段を使用できない場合を想定し、金属の縄梯子も用意しています。消火器の設置もあります。非常用の食料品は最低限の確保はしています。他市で起きたグループホーム火災の翌日、自治会長が訪問してくれる等、地域に支えられ見守られています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者の思いを大切にしたい、声かけに心がけている。	日々の暮らしの中で、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい優しい言葉かけや対応をしています。特に排泄・排便・入浴時には、気をつけています。職員は、個人情報保護について理解しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	食事や飲み物の嗜好、入浴の順番など日常の場面で本人の希望を聞き、決定を促し、それに添う努力をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズムや思いを尊重した暮らしを支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望により、化粧ができるようサポートしている。また、近所の美容院を利用するなどしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常のおしゃべりのなかから希望を引き出し、取り入れるようにしている。日によって、できる範囲で、準備・食事作り、片付けに参加してもらうよう努めている。	食材を生協で購入していますが、週2回の食材買い出しとともに、時には利用者と一緒に行っています。昼食と夕食は職員も一緒に会話をしながら楽しく食事をしています。準備や片づけも利用者が参加しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事量・排泄状況をチェック表で適時把握し、個人の嗜好と体調に合わせてそれぞれ提供できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ていないが、就寝前には必ず行うよう促している。夜間の義歯預かり・つけ置き洗浄。定期的な歯科受診。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗にならないサポートの工夫や失敗と思わせない声かけの配慮に努めている。	入居当初、リハビリパンツを使用していた利用者が、布パンツと尿とりパッドになった事例があります。夜間には、居室に赤外線センサーを置き、ブザーが鳴ればすぐに介助し、排泄の失敗が少なくなった利用者もいます。大部分はトイレで排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排泄状況の把握に努め、出来る限りは薬に頼らず各人によって排便を促す飲み物(バナナミルク)を提供できるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日(隔日)時間帯は決められてしまいが、その中で希望の順番やタイミング、入浴時間、湯温など意向に添い、羞恥心に配慮し無理なく快適であるようなサポートに努めている。	2日に1回の入浴日を決めていますが、一人ひとりのタイミングに合わせて入浴支援をしています。入浴を好まない利用者は、家族の声かけに入浴する時があるので、家族の協力も得ています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寒さ暑さなどの居室の温度に気を配り、就寝につくタイミングには必要な会話を心がけている。 本人の希望や状態によって日中いつでも自室で休息できるようサポートしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期訪問診療時、医師への報告、相談に努め、適切な服薬となるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朗読、折り紙や習字などと共に入居者同士のお喋りを大切にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各人の外出希望には出来る限りサポートに努め、家族との外出も常時実施されている。	ホーム前の公園で毎朝掃除とラジオ体操があり、利用者也参加しています。月に2～3回ふれあいサロンがあり、ここでは、「ほのぼの昼食サロン」が開かれ、地域の方々と交流しています。利用者の元住んでいたところへ行くこともあり、正月は家族と一緒に過ごした利用者もいます。外出は家族や地域の方々と協力しながら、支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人によって小銭程度ながら財布を持ってもらっている。また、買物や受診等の支払の場面でもサポートしつつやっもらうことに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	年賀状を書くのをサポートし、それがきっかけとなり友人・知人への年賀状、来訪へとつなげる事ができている。本人の希望や不穏時等も電話できるよう家族との協力関係もできている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾る事は勿論、新聞があり、本がありといった事。自由に座る席を決められる空間づくり、音楽を聞いたりテレビを観たりが自由に出来るように努めている。	ホーム玄関にはプランターに花が植えられ、一休みできるベンチも設置しています。食堂は天窓があり、室内は明るくなっています。テーブル下にはホットカーペットを敷き、エアコンを入れ、室温にも配慮しています。テレビから懐メロが流れ、居心地良く過ごせる工夫をしています。2階の廊下にもベンチがあり、くつろぐことができるようになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	概ね、各自落ち着ける場所・席が定着しており、状況において配慮し誘導するように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一緒に掃除したり、衣服の整理をしたりして生活環境の気配りをしている。	居室には、テレビ・タンス・写真・装飾品など、利用者の馴染みの物を持ち込み、安心できる温かい雰囲気の居室になっています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの明示はもとよりタンスなどに何が入っているかなど出来る事の支援に努めている。		